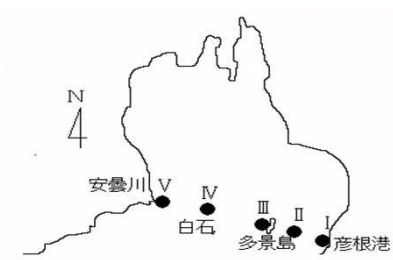


琵琶湖定点定期観測結果速報(令和7年2月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご留意下さい。

調査年月日 令和7年2月7日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 … 5地点の平均値

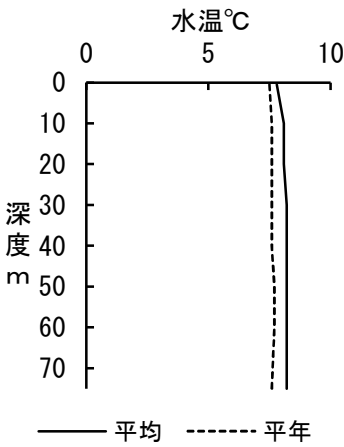
平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2015年～2024年(平成27年～令和6年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 2月平均値 5.4m 平年値 6.8m

2. 湖水温 (°C)

深度 (m)	2月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	7.8	7.5	+0.3
10	8.1	7.6	+0.5
20	8.1	7.6	+0.5
30	8.2	7.6	+0.6
40	8.2	7.6	+0.6
50	8.2	7.7	+0.5
60	8.2	7.7	+0.5
75	8.2	7.6	+0.6



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
1月下旬	8.1	7.1	+1.0
2月上旬	6.5	6.8	-0.3
2月中旬	6.9	6.9	+0.0

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	2月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	3.7	4.3	-0.6
10~20	1.9	1.8	+0.1
20~40	1.6	1.6	+0.0
40~75	2.1	1.1	+1.0

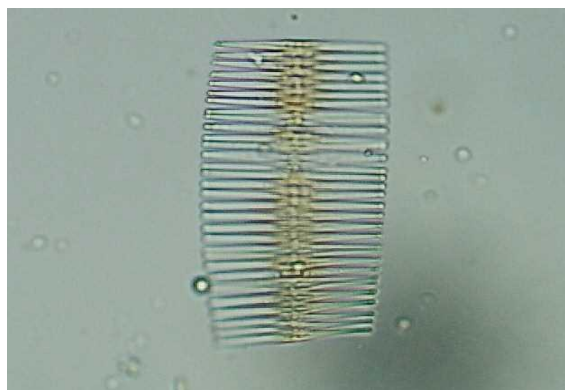
(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

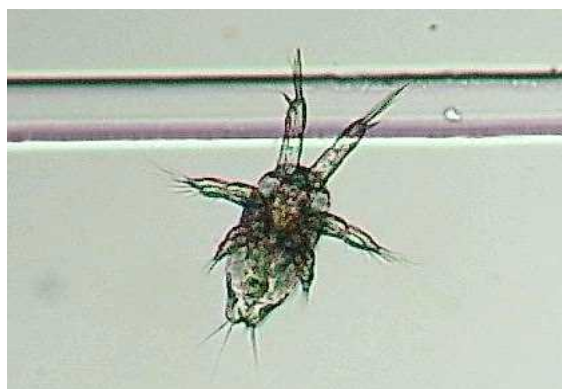
○プランクトンネットNXX14による採集(5%中性ホルマリン固定。植物プランクトンは地点Iと地点IV、動物プランクトンは全地点)

植物プランクトンについては、両地点で*Fragilaria crotonensis* (オビケイソウ:珪藻) が細胞数で最も多く認められた。

動物プランクトンについては、全地点でカイアシ類のノープリウス期幼生が個体数で最も多く認められた。



Fragilaria crotonensis



ノープリウス期幼生

6. DO (溶存酸素濃度: mg/L) 多項目水質計による測定値。

深度 (m)	2月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	11.0	91.9	11.2	94.3	-0.2	(-2.4)
10	10.7	90.7	11.0	92.5	-0.3	(-1.8)
20	10.5	89.4	10.8	90.9	-0.3	(-1.5)
30	10.5	89.4	10.8	90.8	-0.3	(-1.4)
75	10.5	89.2	9.3	78.5	1.2	(+10.7)